

特別重点研究「愛知大学等における歴史的建造物の調査・研究」事業の進捗について

山田邦明

愛知大学には「特別重点研究」という研究支援の制度があり、総合郷土研究所が中心となる「愛知大学等における歴史的建造物の調査・研究」というプロジェクトが採択された。2020年度から2022年度にわたる3年の事業で、2021年度は2年度目にあたる。

明治41年(1908)、現在の愛知大学豊橋校舎とその周辺(当時は愛知県渥美郡高師村)に陸軍第15師団の設営がなされ、豊橋校舎の敷地には師団司令部と歩兵第60聯隊が置かれて、多くの建物が建築された。大正14年(1925)に陸軍第15師団は廃止となり、師団司令部と歩兵第60聯隊の跡地には豊橋陸軍教導学校が置かれることになった。豊橋陸軍教導学校の建物が建てられたのは昭和2年(1927)で、そのあと豊橋陸軍予備士官学校の敷地として利用された。敗戦によって陸軍が解体したあと、昭和21年(1946)に愛知大学のキャンパスとなり、旧陸軍の建物はそのまま利用された。

その後、建物の多くは解体されたが、現在遺されているものもいくつか存在する。明治41年に建築された陸軍第15師団司令部(愛知大学旧本館、現在の大学記念館)、歩兵第60聯隊将校集会所(かつての総合郷土研究所・中部地方産業研究所)、機銃廠(現在の中部地方産業研究所附属生活産業資料館)、昭和2年に建築された大講堂(現在の第二体育館)、養生舎(現在の教職員組合事務所)である。

特別重点研究においては、まずこの5棟の建物の詳細な調査を行うことを目的とし、2020年度に建物の実測調査と耐震診断を実施し、その成果を年次報告書に収録した。2年目にあたる2021年度においては、以下の

作業を進めている。

①陸軍第15師団にかかわる書籍の搜索

まず、陸軍第15師団にかかわる記事がある書籍を捜し、研究現状を確認する作業を行った。愛知大学総合郷土研究所に所蔵されている書籍の中から、師団関係の記事を収めているものを捜し出す作業を進め、多くの書籍の存在を確認した。ことに近隣の地域の方々为主体となってまとめられた『福岡 むかしと今』(豊橋市立福岡小学校校区誌編集委員会編、1985年)、『南栄町物語—軍隊の街から学園の街へ—』(水口源彦、1996年)、『校区のあゆみ 栄』(栄校区総代会・栄校区史編纂委員会編、豊橋市総代会発行、2006年)などは、師団と地域のかかわりなどについて具体的に伝えてくれる貴重な財産である。

②陸軍第15師団にかかわる史料の搜索と分析

続いて、陸軍第15師団にかかわる史料(文献史料)の搜索と分析を行った。まず、国立公文書館アジア歴史資料センターのホームページからの検索によって、防衛省防衛研究所に所蔵されている史料の中に陸軍第15師団に関連するものが多数存在していることを確認した。「陸軍省密大日記」「陸軍省壺大日記」「陸軍省式大日記」「陸軍省参大日記」「陸軍省肆大日記」「陸軍省伍大日記」といった簿冊の中に多くの関連史料があり、明治40年から大正14年までの陸軍第15師団関連史料(師団設置以前から存在していた歩兵第18聯隊にかかわるものを除く)が170点ほどある。陸軍省に提出された伺書・願書などと、この案件の処理にかかわる記事や文書を掲載したもので、どのような要望が陸軍省に提出されたか、それぞれの案件がどうい

う組織で審理され、決定がなされたか、具体的に知ることができる。その中核をなすものは、臨時陸軍建築部本部長石本新六から陸軍大臣寺内正毅にあてて出された伺書で、陸軍第15師団の兵営がどのような手順で整備されたか、といったことなどがよくわかる。

また、豊橋市役所に旧高師村の村会にかかわる史料があり、市役所を訪問して調査・撮影を行った。現存しているのは10冊の冊子で、陸軍第15師団にかかわる記事があるのは「高師村村会議事録」（明治39～44年）、「高師村村会決議書」（明治39～44年）、「高師村村会議決書綴」（大正7年）、「高師村村会議決書綴」（大正12年）、「高師村村会議決書綴」（大正13年）であり、ことに師団設営（明治41年）当時の議事録と決議書がともに現存しているのは貴重である。「高師村村会議事録」は高師村役場において開かれた村会の議事内容を克明に記したもの（議長や議員の発言をそのまま示している）、「高師村村会議決書」は村会で提起され議決された案件にかかわる文書を収録した冊子で、この2冊に収められた記事から、師団設営という事態に対して当時の高師村（村会）がどのように対応したか、具体的に知ることができる（排水路の設置や整備にかかわる陸軍と村側の応酬など）。

さらに、当時の豊橋で発行された新聞『新朝報』（4ページ立てを基本とする日刊紙で、発行所は豊橋市本町の新朝報社）の記事に、関連するものが多く存在する。豊橋市中央図書館にマイクロフィルムが所蔵され、データベースとして公開されており、明治40年から44年までの記事を搜索して、必要な部分を複写した。また、豊橋市中央図書館には師団の設営にあたって作成された、敷地工事の設計書と図面を収めた冊子8冊の写があり、この史料も調査して複写を行った。

③建造物・遺構の確認

愛知大学豊橋校舎の敷地内にある旧陸軍関

連の建造物・遺構については2020年度に確認作業を行い、2021年度は豊橋校舎の周辺にある門柱や哨舎などの建造物、排水路・排水溝などの確認作業を進めた。師団設営にあたって設置・整備された排水路は、田原街道（現在の国道259）の西に新設された排水路（現在の師団都市下水路）、田原街道の東を北に流れる排水路（山田川の上流を開削）、練兵場の南を西に流れる排水路（内張川を整備）の3つがあり、師団の兵営の周囲にある排水溝も、通常のものより幅が大きいという特徴を持つ。師団設営の当初（あるいはそのしばらくあと）に設置・整備されたと考えられる排水路・排水溝について、現地を踏査して現状を確認した。

④陸軍第15師団と同時期に設営された師団の跡地の見学と資料収集

特別重点研究の課題の一つに、陸軍第15師団と同時期に設営がなされた師団の跡地に赴いて建造物や遺構の見学を行い、関連資料を収集するということがある。2021年度はその手始めとして、陸軍第17師団が設営された、現在の岡山大学とその周辺に赴いて、旧陸軍関係の建造物（建物や門柱など）や遺構（土塁など）の存在を確認し、岡山大学における研究成果にかかわる情報を得た（『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要2005』（岡山大学埋蔵文化財調査研究センター、2007年）第1章第3節「1. 津島地区とその周辺の陸軍関連施設について」（野崎貴博氏執筆）など）。さらに岡山県立図書館を訪問して関連資料を捜し、複写を行った。